

- ◆2021年に向日市文化資料館で開催された特別展
「寿岳文章 人と仕事 展」の図録を頒布中です。
1冊 1,000円 (送料 1冊 510円)

お問い合わせは向日市文化資料館まで
617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-1
075-931-1182 shiryo@city.muko.lg.jp



- ◆向日市文化資料館のYouTube チャンネルでは、
バーチャル展覧会「寿岳文章 人と仕事」が公開
されています。

YouTubeチャンネル ▶
「寿岳文章 人と仕事」



NPO法人 向日庵 入会のご案内

寿岳文章が家族とともに営んだ文化的生活を研究・顕彰して後世に
伝え、広く発信することを目的に、2017年4月に「NPO法人 向日庵」が
発足しました。全国に広がる寿岳一家を愛するみなさま、また、文化・芸
術の振興に深い理解をお寄せ下さるみなさま、NPO法人向日庵の趣旨
に賛同いただき、是非とも入会いただきますようお願い申し上げます。

【入会金】 正会員・団体会員：10,000円

【年会費】 正 会 員：10,000円
団体会員：20,000円
賛助会員：30,000円
友 の 会：3,000円

【特 典】 講演会ほか各種イベントへの参加、
機関誌『向日庵』ほか資料類の頒布など



▲会員の集い
(2026年1月)



617-0006 京都府向日市上植野町西小路38-4
<https://koujitsuan.kyoto>
info-koujitsuan@googlegroups.com



寿岳文章が居宅「向日庵」から出版した私家版の印。
庭に植えられていた茶の木から「茶の実」をあしらっ
たもので、蔵書印としても愛用していました。

イラストは寿岳章子『想父記 呼びかわす声』
(人文書院／1993年)表紙より

認定特定非営利活動法人



向日庵

こうじつあん

KOUJITSU-AN



手漉き和紙の調査で長野県豊郷村(現在の野沢温泉村)を訪れた
寿岳文章・しづ夫妻、後方は千曲川

1939(昭和14)年5月

じゅがく ぶんしょう

寿岳文章(1900～1992)は、兵庫県明石郡押部谷村(現在の神戸市西区)の寺に生まれ、関西学院高等学部や京都大学で学んだ英文学者です。関西学院大学や甲南大学で教鞭をとり、英国詩人ウィリアム・ブレイクの研究やダンテ『神曲』の翻訳で知られています。

結婚当初、京都市内の南禅寺山内に住んでいた寿岳文章・静子(しづ)夫妻は、1933(昭和8)年、田園都市構想にもとづき開発された西向日町住宅地(現・京都府向日市)に、澤島英太郎設計、熊倉工務店施工により居宅「向日庵」^{こうじつあん}を建設します。謹厳な書誌学者でもあった文章は、しづ夫人とともに、常に「本之美」を追求し、手ずからの装幀による書物を世に送り出しました。「向日庵本」と名付けられたこれらの私家本は、優れた内容と高い芸術性を合わせ持ち、今も光彩を放っています。

1937(昭和12)年～1940(昭和15)年にかけて、当時衰退しつつあった全国各地の手漉き和紙の産地をしづ夫人と行脚して調査し、その成果を『紙漉村旅日記』にまとめ、和紙研究のパイオニアとして、大きな業績を残しました。

建設当初の向日庵(1934年)▶



▲自宅で本を作る寿岳夫妻



▲『紙漉村旅日記』(1943年)

寿岳文章の恩師であり紙の研究へと導いたのは『広辞苑』編集者の
新村出で、ブレイク研究と書物の美を追求する先達は、民芸運動の創
始者といわれる柳宗悦でした。寿岳文章は、民芸の同人や和紙研究会
の仲間らと親交を結びながら、英文学・書物の研究と和紙復興に尽力し、
また英語を駆使して日本文化を世界に紹介し、交流につとめました。

文章と共に、和紙の調査と向日庵本の発行を担った妻・しづは翻訳・
随筆家、長女・章子は国語学者、長男・潤は天文学者であり、一家はそ
れぞれの分野で、一流の研究成果と著述を残し、「向日庵」は親子二代
にわたる文化創造の場となりました。

2005年の寿岳章子の没後「向日庵」は空家となりましたが、建設から
90数年が経過した現在も、一家が暮らした当時のままの状態で保存さ
れています。2025年3月には国の登録有形文化財(建造物)に登録され、
その後向日市が買い上げを行い、今後の公的利用～公開に向けての
取り組みをすすめています。



▲左から しづ・文章・潤・章子(1944年頃)



▲新村出(左)と寿岳文章(右)



現在の向日庵